



宍道ライオンズクラブ

かわら版

平成31年4月1日
第34号

宍道ライオンズクラブ事務局
まつえ南商工会内
TEL 070-2369-8139

会長スローガン

「日本人の美德を忘れずに WE SERVE」

講師は島根大医学部で思春期外来を担当している稲垣卓司教授（医学博士）。学校に行きにくい児童・生徒を診ている稲垣教授は、子どもの心の問題の特徴として▽精神的な苦痛を言葉で表せない▽腹痛や頭痛など身体症状が出る▽なまけと誤解されやすい▽家族との関わりが大きく影響するーなどを指摘。思春期を小学高学年、中学生、高校以降と発達段階に分けて、心の問題の特徴、親の関わり方を分かりやすく説明しました。

必ず身体症状が現れる

子どもの話を聴いて受け入れる

「学校に行きなさい」は禁句

自己肯定感を高める

子どもに寄り添う姿勢を

印象的だったのは、不登校の子どもたち自身が「何とかしたい」「本当は引きこもらずに人と関わりたい」と思っていることです。親は、子どもの思いを信じて▽自分の意見を押し付けずに、子どもの話に耳を傾ける▽答えを求めているのではなく、話を聴いてほしいことが多い。とにかく耳を傾ける▽他の子どもと比較しない▽子どもをほめるーなどで、子どもの自尊感情（自己肯定感）を高める必要性を説きました。

分かりやすく表現すれば、周囲の大人は子どもの話を聴き、共感し、受け入れて、支持する、ということ。子どもの悩みに日々対応するプロ中のプロは、子どもたちにどのようなアドバイスをしているのが気になる場所ですが、「えー、フーン、そう」しか言わないそうです。「私の話を聴いてもらえるんだ」と子どもに思われることが大事で、「なまけだろう。学校に行きなさい」は禁句。ありのままのいい、少しずついいのです。目からうろこの講演会でした。



▲やさしいまなざしで不登校と親の関わり方などを説く稲垣教授

第二回教育講演会を開催

宍道ライオンズクラブ（三島敏伸会長）は三月十日、宍道公民館で「第三回子どもを取り巻く環境について考える講演会」を開催しました。思春期は、心の発達のために、通り抜けなくてはならないトンネル。しかし、不登校や引きこもり、ゲーム・スマホ依存症など暗いトンネルの中でもがき苦しむ子どもは少なくなく、親も接し方に悩んでいます。そんな「現代っ子病」に向き合う講演会となりました。

ライオンズクラブは子どもの健全な育成を支援します

フォトアラカルト

12/7 みずうみの里
クリスマス会



12/11

しんじ幼保園
クリスマス会



12/20 家族忘年例会 栄道公民館



2/7 献血活動



3/15 わかたけ学園 蕎麦打ち交流会



栄道ライオンズクラブ ホームページ▶ <http://ww52.tiki.ne.jp/~shinjilc/>
(クラブ方針、活動内容、役員会構成、かわら版などがご覧になれます)